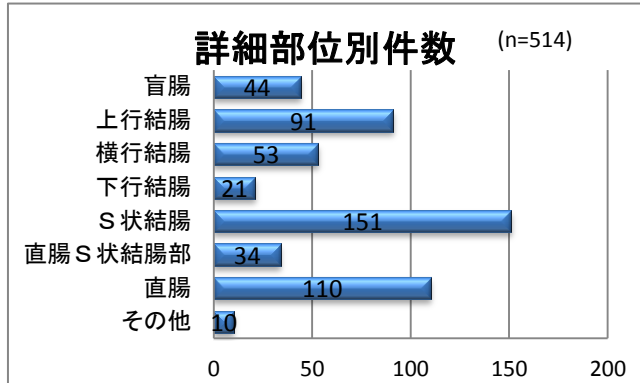
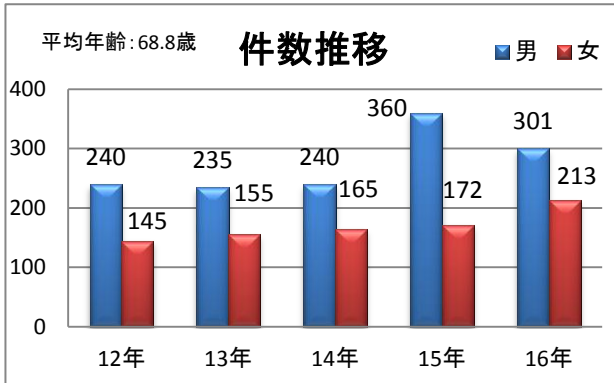
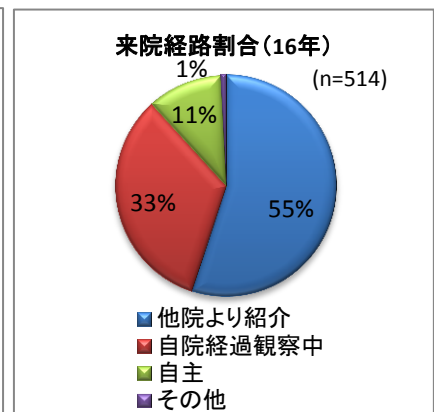
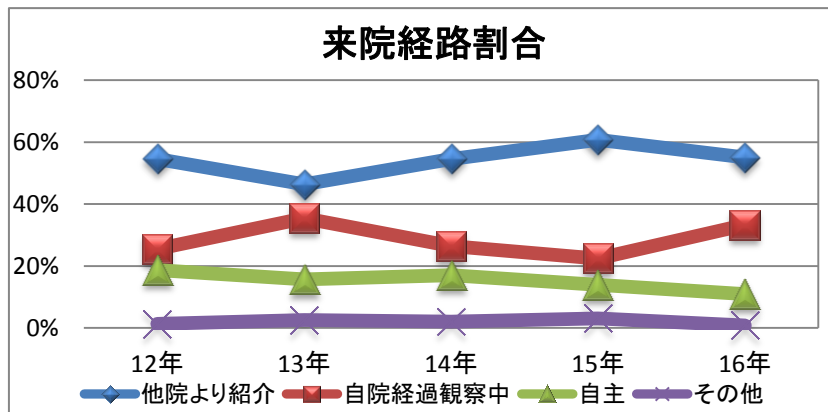


Ⅱ. 2016年集計＜部位別＞

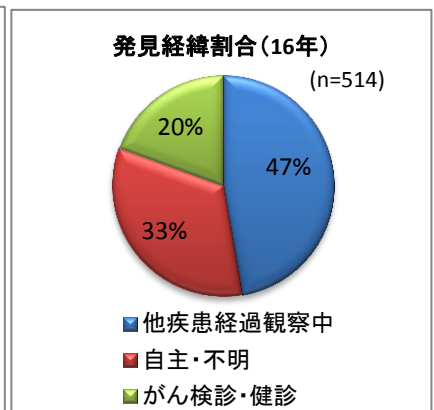
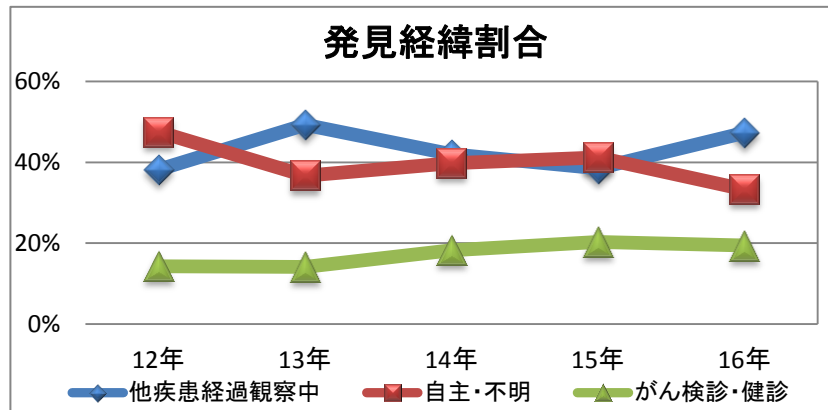
1. 大腸



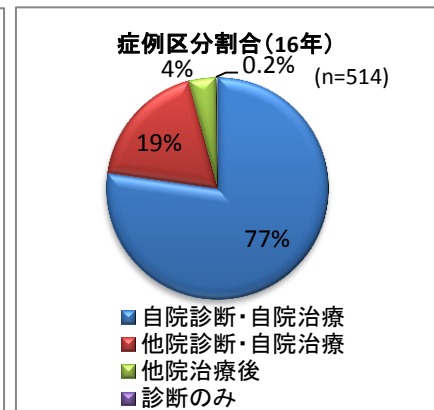
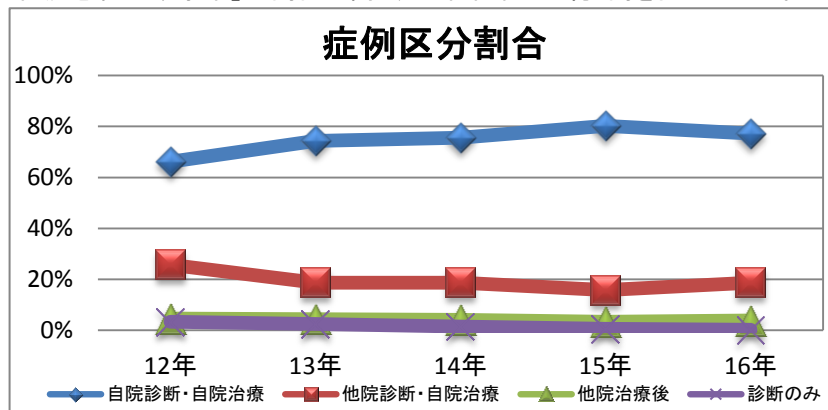
件数推移は女性の件数が増加している。詳細部位別では「S状結腸」の件数が最も多い。



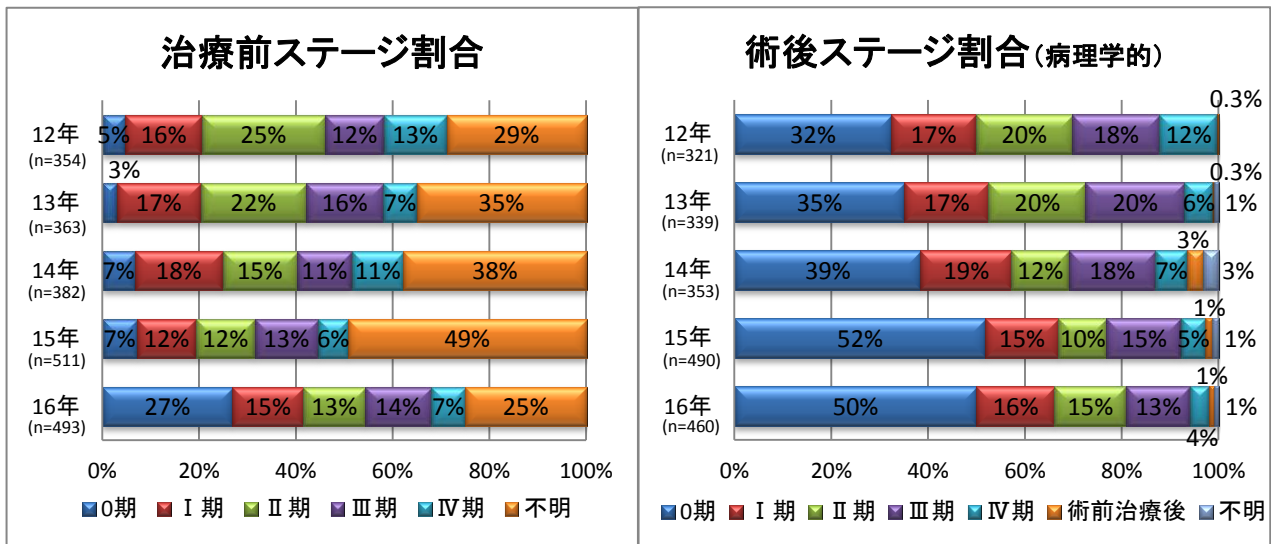
「他院より紹介」の割合が高く、16年単年では約6割を占めている。



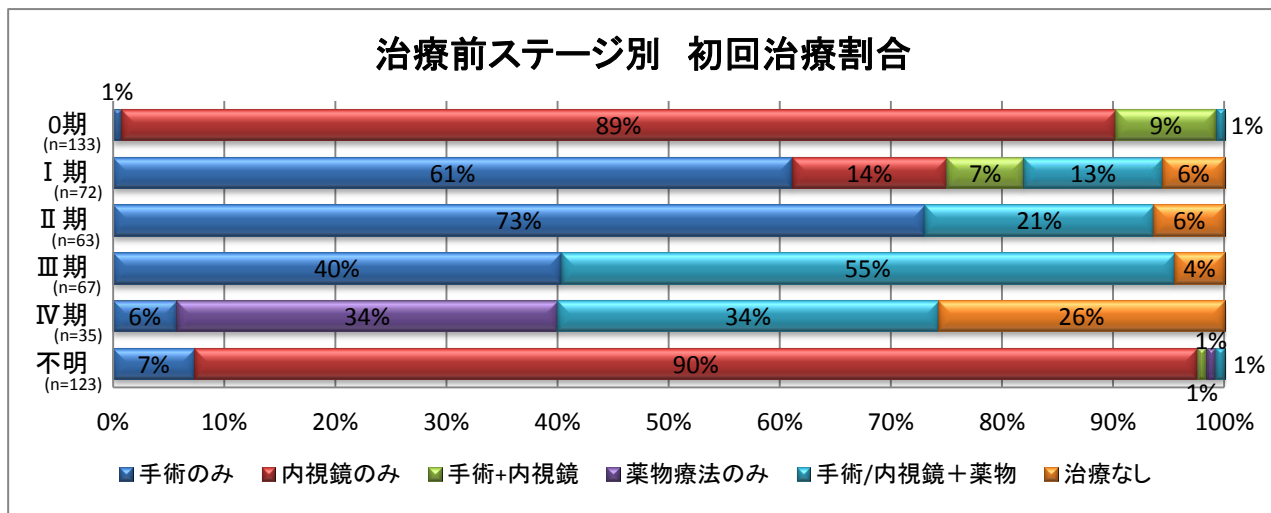
「他疾患経過観察中」の割合が高く、16年単年では約5割を占めている。



「自院診断・自院治療」の割合が高く、16年単年では約8割を占めている。



治療前ステージは「0期」の割合が増加しており、これは16年よりがん登録のルールが変更となり、ステージの登録が可能となった症例が増加したためと考えられる。術後ステージは「0期」の割合が増加しており5割を占めている。※「術前治療後」は、術前に化学療法や内分泌療法で病変を小さくしてから手術する症例が含まれる。



0期では「内視鏡のみ」の治療が約9割を占めている。I期とII期は「手術のみ」、III期とIV期は「手術/内視鏡+薬物」の治療の割合が多い。